

■研修内容	第51回 指導と評価大学講座	主催：図書文化社・日本教育評価研究会
■研修期間	平成21年7月29日(水)～31日(金)	午前9時30分～午後4時30分
■会場	日本教育会館（東京：神田）	

■7月29日(水)

- ◇講義1 新学習指導要領を生かすための基礎 …… P1
辰野千壽（応用教育研究所所長・元上越教育大学長）
- ◇講義2 新教育課程編成のポイント …… P2
安彦忠彦（早稲田大学教授・中教審委員）
- ◇講義3 教育評価の現状と課題 …… P4
石田恒好（文教大学学園長）
- ◇講義4 新学習指導要領移行期における授業づくり …… P6
有田和正（東北福祉大学教授／教材・授業開発研究所代表）

■7月30日(木)

- ◇講義5 生徒指導とカウンセリング …… P8
國分康孝（東京聖徳大学副学長・日本カウンセリング学会会長）
- ◇講義6 「教えて考えさせる授業」をどう創るか …… P9
市川伸一（東京大学大学院教授）
- ◇講義7 新学習指導要領に対応した学習の指導と評価 …… P11
北尾倫彦（大阪教育大学名誉教授・教課審専門委員）
- ◇講義8 教室でできる特別支援教育 …… P12
曾山和彦（名城大学准教授）

■7月31日(金)

- ◇講義9 学ぶ意欲と学力の向上 …… P14
桜井茂男（筑波大学教授）
- ◇講義10 心と社会性を育てる道徳教育 …… P15
押谷由夫（昭和女子大学教授）
- ◇講義11 地域・保護者と連携した学校づくり …… P17
野口克海（大阪教育大学監事）

1 目 目

◇講義1 新学習指導要領を生かすための基礎

辰野千壽（応用教育研究所所長・元上越教育大学長）

1 新学習指導要領の目指す教育

(1) 確かな学力の形成【知育】

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- 思考力・判断力・表現力（活用する力）の育成
- 学習意欲向上と学習習慣の確立
- 学力の形成
 - ・学習の型
 - ア 習得（知識・技能）—活用（思考力・判断力）—探究（問題解決力）
 - イ 基礎—弁別—概念—法則—問題解決（知的技能の学習階層モデル：ガニエ 1977）
 - ・学習の過程

動機づけ→獲得→保持→転移（応用・活用）

……教科内・他教科・実生活で生かされるような場をつくるのが大事。

- (2) 豊かな心の育成【徳育】
 - 道徳教育の改善・充実
 - 規範意識の確立→今、最も求められている。
 - ・学校や学級のルールを最重要とする考えを共有／大目に見ることがよいことか？…齟齬をきたす
 - 体験活動の重視
 - ・体験してみ始めてわかることがある。
- (3) 健やかな体の育成【体育】
 - 健康的な生活習慣の確立
 - ・早寝早起き朝ご飯→今や常識。その常識が実践できないことが問題
 - 体育の充実と強化→教科体育をいい加減にしないこと。
- (4) 教育内容の改善
 - 教科横断的・総合的な学習の時間の充実
 - 情報教育・環境教育・物づくり・キャリア教育・安全教育など

2 今日の問題点

- (1) 児童中心主義への行き過ぎ
 - 「新しい学力観」の誤った解釈
 - ・「関心・意欲・態度」が筆頭観点……「支援」の流行／指導すべきは指導する
 - ・「自発性・自主性」の誤解……他から矯正することはよくないという誤解？
 - 「許容社会」の影響
 - ・緩やかな社会、叱らない・叱れない社会、大目に見る（まあ、いいか）→学校社会へも
 - ・学校では「規範意識」の確立を→何より大事
 - 教師の威信（威光・威厳）の低下
 - ・社会的評価の低下→高めない限り、何をやってもうまくいかない。

3 教授の過程

レフランコイス 2006 の理論

教授の過程	目的	教授方略
①注意を集中させる	・新しい情報の受容を可能にさせるため	・強く引きつける導入
②目的を知らせる	・期待を持たせる	・自分は何ができるようになるか知らせる。
③以前の学習の再生	・新しい学習を関係づけるアンカーを与える。	・既習事項を思い出させる質問をする。
④刺激（教材）提示	・教材に注意し、学習するように促すため。	・新しい情報を提示する。
⑤ガイダンス	・学習者が言語化を用いて理解し、体系化し、関連を見るように助ける。	・説明、例示、精緻化し、関係を示し、応用を示す。（種々の教授媒体で）
⑥遂行（反応）を引き起こす	・学習上の問題を示すことができるように。	・再生、応用、要約、一般化を求める。
⑦フィードバックを与える	・学習の努力に対し、強化を与えるため。	・言語化あるいは他の様式の強化を用いる。
⑧遂行を評価する	・再生の機会を与えるため。	・教授技術とその効果を評価するための公式的及び非公式的なテストを用いる。
⑨保持と転移を高める	・学習を応用し、一般化する機会を与えるため。	・異なる文脈において練習させる。

4 自己制御学習力の育成（チーマー 1996）

- (1) 自己制御学習力
 - 「学習目標の達成のため、自分の学習意欲や学習方略を意図的に制御して自律的に学習する力」
 - 目標設定、方略設計、自己監視、自己評価、自己調整など、メタ認知的活動を行う。
- (2) 自己制御学習力のステップ（チーマーら 1996）
 - ステップ1…自己評価と自己監視（学習者が以前の遂行と結果を見て、自分が何ができるかを判断する）
 - ステップ2…目標設定と方略設計（具体的学習目標を設定し、達成のための方略を計画する）
 - ステップ3…方略実行と監視（計画した方略を実行し、その正確さを監視する）
 - ステップ4…方略実行の結果の監視（学習結果にどのように影響したか調べる）

◇講義2 新教育課程編成のポイント

安彦忠彦（早稲田大学教授、中央教育審議会委員）

1 学習指導要領改訂の背景（「教務資料第3号」参照）

- (1) わが国の歴史的な位置の変化

- キャッチアップした国の教育→モデルとなる国がなくなった＝「思考力」重視へスタンスを移す
- (2) 社会の教育力の衰退
 - 社会全体の取り組みによる教育の回復と再生の声
 - ・私教育（家庭や地域の教育）の再生…学校が引き受けるとますます低下していく。
- (3) 学校教育の国際比較上の変化
 - OECD/PISA の学力観と学力低下傾向（*キーコンピテンシー：中教審答申 P9 参照）
 - 日本も倣わざるを得ない国際状況

2 新教育課程編成の大枠

(1) 義務教育 9 年間を見通した教育課程

- 学教法 21 条の目標規定（10 項目）＝6 / 3 制の相対化…9 年間の区切り方

— 参考〈学校教育法第 21 条で規定されている義務教育普通学校の目標〉—

- 1 学校内外における社会的活動を促進し、自主、自律及び協同の精神、規範意識、公正な判断力並びに公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 2 学校内外における自然体験活動を促進し、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 3 我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。
- 4 家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業その他の事項について基礎的な理解と技能を養うこと。
- 5 読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと。
- 6 生活に必要な数量的な関係を正しく理解し、処理する基礎的な能力を養うこと。
- 7 生活にかかわる自然現象について、観察及び実験を通じて、科学的に理解し、処理する基礎的な能力を養うこと。
- 8 健康、安全で幸福な生活のために必要な習慣を養うとともに、運動を通じて体力を養い、心身の調和的発達を図ること。
- 9 生活を明るく豊かにする音楽、美術、文芸その他の芸術について基礎的な理解と技能を養うこと。
- 10 職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと。

- 個性教育より共通教育の重視

(2) 「実社会・実生活に生きる力」の育成

- 「知識・技能」により質を高めた「思考力等」の育成＝学教法 30 条 2 項の学力規定…知識・技能＋思考力等＋意欲・態度

— 参考〈学校教育法第 30 条 2 項の規定〉—

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

- 知識・技能…反復練習不可欠→身につけた力を使う場を設定しなければならない。
- 思考・判断…理論と体験の往復運動→論理、批判的思考重視
- 知識・技能と思考・判断のバランスが大切という意識を教師は忘れずに。
- フィンランド…読み書き能力低下 / 04 年から指導要領改訂 / 考える力を重視しすぎた結果

(3) 「活用型」学習の具現化

- 学習の新類型の導入＝「活用型」は「習得型」と「探究型」を媒介する学習類型
- 「活用」…ねらいは「探究型」につながるもの。知識・技能を活用・適用する学習であり、総合的な学習の時間への慣らし運転となるべき学習
- 総合的な学習の時間…「探究型」→学習の質を高めるべき性質の学習
- 教科時数増は「活用型」に使う。

(4) 「持続発展教育」ESD の導入による「環境教育」の強化

- 国際連携、国際協力の不可欠性＝国家主義・民族主義・自国の利益優先は通用しなくなってきた。
- エネルギー、資源、食料などについての共通認識…自国レベルだけではすまない。
- 小学校でも上記のような意識を育てる必要がある。

(5) 道徳教育のいっそうの強化

- 「学校外の教育資源」のいっそうの効果的利用の促進
- 社会人、外国人の参加促進
- 生きる力のイメージ図改良版 2（文科省作成：既に配布済み）では、「豊かな心」が学力や健康な体を規定している。

- 学校全体での徳育の充実→学校体制での組織と年間計画
- (6) その他
 - 表現力…単独ではなく、3つの能力(思考力・判断力・表現力)の一つとしての示し方 [総則編3章5節の1]
 - 読み・書き・算…技能水準の維持が重要、15～20分の宿題を
- 3 新教育課程編成のポイント
 - * 中教審最終答申の内容上の「おもな改善点」7項目が教育課程に具体化されているか。
 - 教職員が一丸となつてなすべきことをなす。(実践のための「場づくり」を)
 - (1) 言語活動の充実
 - 各教科での言語活動重視…「記録」「説明」「論述」「討議」など
 - コミュニケーションや感性、情緒の基盤としての言語活動重視…「表現活動」
 - とりわけ「書く活動」を重視
 - (2) 理数教育の充実
 - 小中の円滑な接続を踏まえた内容の系統性
 - 実生活に結びついた学習(科学リテラシー)…「わかる」「楽しい」「役に立つ」
 - 論理的・批判的表現力を磨く。
 - (3) 伝統や文化に関する教育の充実
 - 他国の伝統や文化の尊重…国際社会で活躍する「成熟した」＝「自己絶対化しない」日本人の育成
 - 宗教に関する一般的教養
 - 多文化共生の考え方…未熟な民族主義に陥らないよう
 - (4) 道徳教育の充実
 - 道徳の時間は要、発達段階に応じたような体験活動、社会人との協働
 - 「人間性・道徳性」の育成が究極目的、学力はその一部
 - 感動的な教材づくり、社会人とのコラボ
 - (5) 体験活動の充実
 - 社会性・人間性・知性の基礎、発達段階への対応
 - 集団宿泊活動や自然体験活動、職場体験学習の重点的・拡張的推進
 - (6) 小学校段階における外国語活動
 - 外国人との積極的なコミュニケーション活動を国際理解
 - 中学校へ向けて外国語嫌いにしないこと＝発音などは重視しない
 - (7) 社会の変化への対応の観点から、教科等を横断して改善すべき事項
 - 情報教育／環境教育／ものづくり／キャリア教育／食育／安全教育／心身の成長発達についての正しい理解
 - 情報教育…特に形態に関する問題
- 4 まとめ
 - 各学校で課題に優先順位をつけ、学校固有のものと校外連携のものに区別する。
 - ・考える時間を増やす。集団で考え合う場を
 - 学校＝公教育から家庭・地域＝私教育への「教育的関心」の広がり教科する。
 - ・社会に向かって呼びかけよ！→社会全体による私教育の再生・復活
 - 参考図書「成長のものさし」チップ ウッド：著 安彦忠彦・無藤 隆(翻訳)図書文化社 ￥2,310

◇講義3 教育評価の現状と課題

石田恒好(文教大学学園長)

- 1 教育評価の基礎的知識の不足と誤解 —「理解できていない教員が多い」という事実—
 - (1) 教育測定とは
 - 観察、テスト等によって事象(状態)を明らかにし、数量的に表す操作
 - ・テスト…その単元でつきたい力(学習指導要領)がチェックできるもの
 - ・数量的に表す…客観性の問題
 - (2) 評定とは
 - 観察、テスト等によって事象(状態)を明らかにし、あらかじめ設定した基準に従って点数や記号を付与する操作→「3・2・1」「A・B・C」
 - ・80%以上実現を「3」など
 - ・教師は、評定「1」がなくなる努力を
 - 記述評定
 - ・総合的な学習の時間の評価→加えて「外国語活動」の評価

(3) 目標達成のための授業づくり

- 評価・評定は教師自身への評価である。
- 指導と評価の一体化…手がかかるがとても大切な授業論

(4) 教育評価とは

教育による目標の実現状況を明らかにし、それに基づいて教育（教師の指導，児童生徒の学習，管理職の学習環境の整備，管理運営等）が，目標の実現のために機能しているかを値踏み（反省・チェック）し，不十分であれば機能するよう改め，教育をし直し，目標の実現を目指すためのもの。

→「教育をし直し……」がポイント

(5) 指導と評価の一体化

- 目標が実現される授業づくり
- 短いサイクル（単元ごと）の指導と評価の一体化
 - ・ **O → P lan → D o → C heck → A ction → O**
目標 計画 実践 評価 指導のし直し 目標
 - ・ テストは実施後，直ちに返却する。→子ども自身の素早い自己評価
- 反省
 - ・ 教師…指導について 児童生徒…学習について 管理職…学習環境や学級編制など
 - ・ 行政…カリキュラムなど
- 目標の実現
 - ・ 教師…指導のし直し 児童生徒…学習のし直し →できているかどうかを自己評価すべし。

(6) 身につけるべき学力とは

- 学力とは，学習によって獲得された能力であり，習得すべき学力は学習指導要領で示されており，教育によってそれが実現している状態である。

2 評定への不振 —信頼回復への手順—

(1) 測定目標の設定（共有）

- 評価目標の全体を具現化し（目標分析），そこから代表的なものを抽出して設定する。
 - ・ 目標分析→教材研究＝身につけさせるべき内容は何か
- 具現化とは，すべての教師に指導内容が見え，測定のしかたがわかる状態
 - ・ 例：九九をすべて唱えることができる／2桁×2桁の文章題が解ける／新出漢字が書ける
 - ・ 指導要領を具体化させた埼玉県例
- あくまでも「目標中心」→目標達成が目的であり，方法論が目的にならぬように

(2) 評価資料の収集

- 測定技術の選択……テスト，作品，アンケート，面接など
- 測定技術の作成……選択した技術を具体化
- 実施…妥当性，信頼性，客観性などの検証

(3) 資料の解釈

- 評定基準
 - ・ 評定のよりどころ
 - ・ 目標基準，集団基準，個人基準
- 規準
 - ・ 目標（あり方）というよりどころ
 - ・ このレベルにはしたいという指導の方向性
- 基準
 - ・ 評定（現実）のためのよりどころ
 - ・ 目標基準…目標基準準拠評定，絶対評定→重視
 - ・ 集団基準…集団基準準拠評定，相対評価
 - ・ 個人基準…個人基準準拠評定，個人内評価→重視／ポートフォリオ評価

3 指導と評価の遊離 —一体化を目指すシステム—

目標1—計画1 (P1)—実践1 (D1)—評定1 (S1 見とり，チェック，改善)—計画2 (P2)—実践2 (D2)—評定2 (S2 実現の確認，成績)

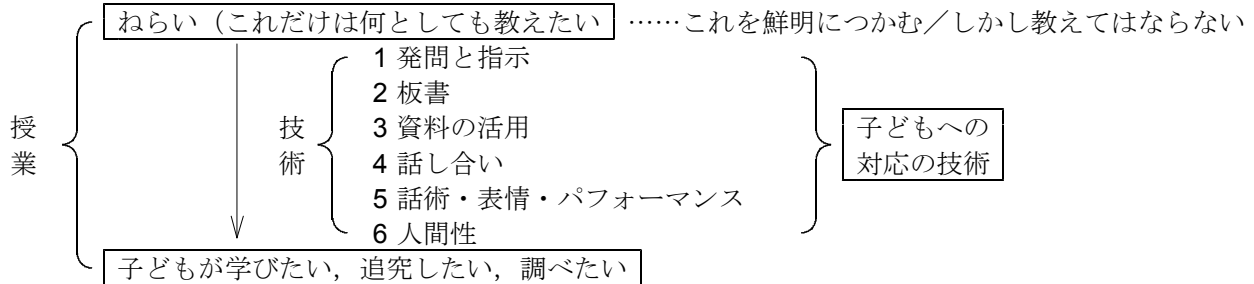
(1) 指導目標の具体化

- 指導目標を目に見える形で具体化させる。
 - ・ 数値目標，行動目標→誰にでもできる評価／客観性のある評価
- 本時で，単元で行う。
 - ・ 短いスパンで。評価即手当が原則→そのための評価
- 観点別に行う
- 学年部会，教科部会で妥当性を検討

(1) 応用力を育てる〈タラントのたとえ〉

- 今までの教育→10学んだら、その10を保持する(学んだことをその通りに身につけている子)
- これからの教育→10学んだことを、20, 30にする。忘れなければいい、だけではだめ。
 - ・自らの力で知識や学習技能を発展させる力
 - ・「基礎・基本」を確実に習得させる。
 - ・「基礎・基本」とは?→「応用が利く」「身につけにくい(剥落しやすい)」「次第に個性的になる」
 - ・そのための教材は?→「興味・関心が持てるもの」「内容・方法など力をつけるもの」

(2) 授業を充実させる



5 具体的な授業の例

(1) 活用型の授業例

- 授業づくりのポイント
 - ・子どもが追究したくなる「はてな?」を持たせる
- 授業の流れ
 - ・遠足で導入……三浦半島へみかん狩り
 - ・「みかん学習」へ切り込む……作文「温かい土地」「海のそば」「リンゴ産地との差」
 - ・動き出した子どもたち……「八百屋のみかんの箱」「愛媛みかん」
 - ・みかん栽培の条件……ひとりの考えがみんなを変えた
 - ・驚くべき調べ方と表現方法……調べてきたことを「実況中継風」に書いている。
何としても伝えたいと思えば、自ら書き方を工夫する。
 - ・計算する子ども……「30葉1果」をつきとめる。*1葉1果はイチジク
 - ・まとめ

(2) 歴史学習の授業例

- 長崎街道 (シュガーロード) と京都の菓子
 - ・寺, 神社と菓子
 - ・京都に集まる砂糖 (ザビエル)
 - ・上質の菓子
 - ・シュガーロードとの関係
- 長崎街道 (シュガーロード) と小城羊羹 (佐賀県)
 - 228 km →小さな町に29軒の店 (工場)
 - ・出島—砂糖 (白い宝石)
 - ・長崎街道→全国へ「白い宝石」
 - ・カステラ, 丸ボーロ
 - ・お菓子の歴史—シュガーロードの歴史
 - ・佐賀県は羊羹の消費量日本一
 - ・東京の「虎屋の羊羹」が見えてくる

6 まとめ

(1) 「意欲」を引き出すことの大切さ

- おもしろい教材
- おもしろい体験

(2) 生きる力

- 時代の変化に対応して新しい知識・技能を創造し続けていく力

(3) 資質×環境×意欲=能力

- 変えられるのは「意欲」だけ/能力を伸ばすには「意欲」を高めるしかない。
- 意欲のもてる教材, 指導法を開発する

2 目 目

◇講義5 生徒指導とカウンセリング ―心理療法志向のカウンセリングから生徒指導志向のカウンセリングへ― 国分康孝（東京成徳大学副学長：日本カウンセリング学会会長：日本教育カウンセラー協会会長）

- 1 2つのスクールカウンセリング
 - (1) ロジェリアンの特徴＝臨床心理士
 - 日本のスクールカウンセリングはロジェリアンと臨床心理士が主流の時代が続いてきた。これに対するのが生徒指導志向のカウンセリングである。
 - カール・ロジャーズ アメリカの臨床心理学者で、来談者中心療法を創始
 - 受け身的である……来るものは拒まず、去る者は追わず
 - 心理療法とカウンセリングの識別がない。
 - 学校からいうと「外部連携機関」にあたる。
 - (2) 生徒指導志向のカウンセラーの特徴⇔心理療法志向のカウンセリング
 - 発達課題を対象とする
 - プログラムを展開する
 - ・授業型カウンセリング
 - 教員が行うカウンセリング
 - 教員が心理療法志向のカウンセリングをすべきではない……保護者への責任
- 2 生徒指導志向のカウンセリングの原理
生徒指導（ガイダンス）は教育
心理療法よりも現実原則の要素が強い
心理療法よりも能動的
心理療法よりもグループ志向（プログラム展開方式）
スクールカウンセラーは「教育者」であるべき、「治療者」（心理臨床医・臨床心理士）ではない。
 - (1) 現実原則と心理主義
 - 心理主義にとらわれてはならない。→心理の説明だけで人生は生きられない。
 - 現実原則→目の前の現実をとらえる。
 - (2) 「受容」と「コンフロンテーション」
 - 受容……傾聴
 - コンフロンテーション……自分の考えを子どもに訴える／打って出る
 - 自己の思いを開示（自己開示）……「先生、とてもいやな気持ちになったんだ」
 - (3) プログラム（エクササイズ）
 - 個別の身の上相談ではなく、学級全体でエクササイズ
 - プログラム方式エクササイズ……集団に対して働きかける／集団を向上させる
- 3 SGEのプログラム **Structured Group Encounter** 「構成的エンカウンター」
 - (1) 目的
 - ふれあいと自他理解
 - ・構成的……枠（制限）を与える。指示をする（「1分間ですよ」「3人グループですよ」等）
 - ・エンカウンター……本音と本音の交流
 - ・例 「私は私が好きです。なぜなら～」 「私は○○ちゃんが好きです、なぜなら～」
別れの花束「あなたは～がすてきです。これからも～」
 - (2) 方法
 - インストラクション
 - デモンストレーション
 - インターベンション
 - シェアリング
 - (3) 条件
 - 自己開示能力は自己受容の度合いによる。
 - ・アイデンティティーがあるかないか
- 4 キャリア教育のプログラム
 - (1) 先を見て今を生きる教育
 - 先を見て生きる教育……子どもの現実判断を促進，トランスを生む。
 - ・先を見るにはどのようなプログラムが有用か。

→今、何をすべきかがわかる／今の苦勞に耐えられる

→アウシュビッツ収容所の例（時計もなく、いつになったら出られるかわからない不安から自殺者が多発。クリスマスには解放されるらしいという情報で自殺者が激減）

- ・SGEが示唆に富む
- ・往復書簡法……「20才の自分に手紙を書く」「20才になったつもりで中学生の自分に手紙を書く」

(2) 人生の状況に意味を見いだす教育

- どのキャリアにも欲求不満やストレスが伴う。
 - ・認知のしかた（意味づけ）が有効
 - 自分で意味づけを発見できる能力
 - ・そのためどのようプログラムが有効か
 - ・リフレーミング，論理療法 REBT

(3) 自己肯定感を育てる教育

- キャリアを選ぶ（自己主張）には自己肯定感が必要
 - ・どのようなプログラムが自己肯定感を育てるか。
 - ・印象を語る／ほめあげ大会／別れの花束など
 - ・ポジティブな自己概念を育てる。→日常生活の中で

5 サイコエジュケーション（心の教育）のプログラム

心→反応……感情／思考／行動

(1) 思考のサイコエジュケーション

- 役割交換法……偏見・上下関係・尊卑
 - ・ホワイトカラーにブルーカラーの仕事を
- 対話法
- 自己開示法
 - ・自己を語る

(2) 感情のサイコエジュケーション

- 心を揺さぶる
 - ・ケアされる体験，音楽や歌，遊び，未完の行為の完成など
 - ・ある中学校での実践「浴衣を着させてもらい，運んでもらい，脱がせてもらう→いたわりの感情」

(3) 行動のサイコエジュケーション

- ソーシャルスキル
 - ・あやまり方／あいさつのしかた／上司との接し方 など
- スタディスキル
 - ・勉強のしかた／読書のしかた／レポートの書き方 など
- コミュニケーションスキル

6 結論

学校教育で求められるカウンセリングは心理療法家・臨床心理士による個室の身の上相談分の面接（インドア方式）ではなく，教師が行えるアウトドア方式のプログラムを展開する授業型のガイダンス・カウンセリングである。これが本来のスクールカウンセリングである。

◇講義6 「教えて考えさせる授業」をどう創るか

市川伸一（東京大学大学院教授）

1 「新しい時代の義務教育を創造する」2005.10.26 中教審答申

(1) 学校力，教師力の強化により「人間力」の育成

- 国による基盤整備（インプット）
 - ・学習指導要領
- 分権改革（プロセス）
 - ・人事，学級編制
- 国による結果検証（アウトカム）
 - ・全国的学力調査

2 「習得」と「探究」の学習

(1) 学習の2サイクルモデル

- 学習のサイクル……目標とする知識・技能の獲得
- 探究のサイクル……自らの関心にそった探究活動
- 基礎から積み上げる学び……習得から探究へ

- 基礎に降りていく学び……探究から習得へ
- (2) 中教審答申 2005.10.26 P14
 - 習得型の教育……基礎的な知識・技能の育成
 - 探究型の教育……自ら学び自ら考える力の育成
- 3 基礎学力はどう保証するのか
 - (1) 少ない時間の中で、どの子にも基礎学力をつけるには
 - 教えて考えさせる授業
 - 家庭学習を含めた学習スキルの育成
 - ・学力・学習力診断テスト COMPASS
 - ・学習法講座……予習・復習の習慣と方法
 - 授業外の学習支援システム
 - ・学習相談室
 - ・自治体による補充・発展学習ゼミナール
- 4 「教えて考えさせる授業」の提案
 - (1) 「教えて考えさせる授業」 2001,2004 市川提案
 - 「詰め込み」「教え込み」……旧タイプのわからない授業
 - 「教えずに考えさせる授業」……新タイプのわからない授業（支援の流行／自力解決）
 - ・授業の流れ：問題提示→自力（協同）解決→確認（まとめ）→ドリルまたは発展
 - 「教えて考えさせる授業」……予備知識の教授により，理解・問題解決・定着を促す
 - (2) 中教審答申 2008.1.17 P18
 - 「教えて考えさせる指導を徹底し，基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることが重要なことは言うまでもない」
 - ・教材や教具の工夫，理解度の把握を
- 5 「教えずに考えさせる授業」の問題点
 - 先取り学習している子，すぐに答がわかった子にとって，退屈な授業
 - 学力の低い子は，自力解決もできず，討論にもついていけない。
 - ・雲の上のやりとり
 - 問題解決学習を目指しているのに問題解決学習にならない
 - 教師がていねいに説明する時間がなくなる。
 - 基本的事項すら理解できない子どもを大量に生み出す
- 6 「教えて考えさせる授業」の構築

- (1) 授業の流れ
 - ・教師からの説明（起）→理解確認課題（承）→理解深化課題（転）→自己評価活動（結）
- (2) 「教える」段階

段階レベル	方針レベル	教示・教示・課題レベル
予習	授業の概略と疑問点を明らかに	<ul style="list-style-type: none"> ・通読してわからないところに付箋を貼る ・まとめをつくる／簡単な例題を解く
教師からの説明	教材・教具・説明の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の活用：音読，図表利用 ・平行四辺形の面積：方向けのワザ ・等しい比：□を求める3ステップ
	対話的な説明	<ul style="list-style-type: none"> ・代表児童との対話 ・理由の確認 ・挙手による賛成者の確認

- (3) 考えさせる段階

段階レベル	方針レベル	教示・教示・課題レベル
理解確認	<ul style="list-style-type: none"> 疑問点の明確化 児童自身の説明 教え合い活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書やノートに付箋を貼っておく ・ペアやグループでお互いに説明 ・わかったという児童による教示
理解深化	誤りそうな問題	<ul style="list-style-type: none"> ・平行四辺形の面積：情報過多問題 ・てこのはたらき：棒曲げ問題
	応用・発展的問題	<ul style="list-style-type: none"> ・割り算の導入：問題づくり ・円周率：実測値がちょうど 3.14 にならない理由
自己評価	試行錯誤による技能の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動：開脚前転のコツ ・かんな削り：葉の出し方，削る姿勢
	理解状況の表現	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかったこと」「わからないこと」

- 7 よくある誤解・疑問・反論に対して
- (1) 問題解決学習を否定するのか
 - いわゆる問題解決学習との違い
 - ・受容学習の重要性／基礎知識の共有化
 - (2) 「教える」が習得で「考えさせる」が探究なのか
 - 習得の中でこそ「教えて考えさせる」
 - ・探究ではかなり柔軟に (on the job)
 - (3) 教えて考えさせればこの授業になるのか
 - 理解確認, 自己評価における理解度のモニター
 - ・教えたことがわかったか／指導目標は達成されたか
- 8 「教えて考えさせる授業」がうまくいかないとき
- (1) 「教える」ところで十分教えない
 - 「教える」ことへのためらい／「教える」工夫や技術の不足
 - ・ていねいに, わかりやすく教える工夫とは
 - ・対話的な説明, 教材屋教具の工夫, 参加的態度
 - (2) 「考えさせる」課題に魅力がない
 - 迷いや多様なアイデアを誘発しない単調な課題
 - 癸酉知識からの距離が近すぎる, または遠すぎる課題
 - (3) 理解度のモニターが不十分
 - 診断的質問, 説明活動, 教え合い活動で反応をモニター

◇講義7 「新学習指導要領に対応した学習の指導と評価」

北尾倫彦 (大阪教育大学名誉教授・教課審専門委員)

1 新学習指導要領から読み取るべきこと

- どのような学力を重視するのか
 - どのような学習を導くのか
 - 指導をどのように改めるのか
 - 評価をどのように改めるのか
- 参考 —
- } 読み解いておく必要がある。
参考：総則や最終答申

学習指導要領総則の中のおもな文言		
学 力	学 習 (類型) (具体的活動)	指 導 (と評価)
○知識・理解 (ベーシックスキル・基礎学力)	○習得 ・問題解決的な学習 ・体験的な学習	<ul style="list-style-type: none"> ・系統的, 発展的な指導 ・個別指導, グループ別指導 ・習熟に応じた指導 ・補充的な学習や発展的な学習を取り入れた指導 ・繰り返し指導 ・協力的な指導 ・合科的, 関連的な指導 ・言語環境の整備 ・学級経営の充実
○思考力・判断力・表現力 (PISA, 質の高い学力)	○活用 ・言語活動 ・見通しを立てたり, ふり返ったりする活動	
○主体的に学習に取り組む態度 (「自ら考え自ら…」に替わる概念)	○探究 ・自主的, 自発的な学習 ・学習課題や活動の選択	

* 「活用力」は学力ではない。「使って解決する」学習活動を指す。

2 言語活動と活用型の学習活動

(1) 言語活動の充実

- 基礎的言語のスキル
 - ・読み, 書き
 - ・読書と作文 (生活作文ではなく) →客観的にチェックできる。自分で吟味できる。(思考力)
- 調べ学習, 実験・観察, 読書活動の計画やまとめ
 - ・計画と報告……書くこと 話し合いはこれらを補完するもの
- 発表・討論・論述の導き方→理科や社会で
 - ・発表して議論して論文に書く

- ・発表、議論の客観的な論拠をしっかりと
- ・他人の意見を集約すること、反論を予想して武装すること
- 解釈力・批判力の育成
 - ・解釈力……自分のものとする
 - ・批判力……自分がどうとらえたか→問いを持つこと
- (2) 活用型学習活動と授業
 - 活用型学習活動を取り込んだ授業設計
 - ・発展的学習の中で探究活動を＝活用力
 - 問題解決的な学習を導く授業→探究活動
 - ・必要な知識を与え、子どもに考えさせる→ほんとうに「学ぶ」とは？
 - 創造的な学習を導く授業
- (3) 評価の観点と学力の複合性
 - 学習活動と学力の対応関係
 - ・「思考・判断・表現」の観点から言語活動や活用の成果を評価する。
 - 総括的評価・学力調査とテストの信頼性
 - 新観点……「ベーシック」と「質の高い学力」の観点
 - 知識・技能／思考力・判断力・表現力／主体的な学習態度
- 3 主体的な学習態度の育成……「自分の考えをもって学ぶ」
 - (1) 学ぶに値する課題（教材）
 - 教材づくりと課題意識の喚起
 - ・子どもが「学ぶに値する」と判断できる。
 - ・課題のよさ→日頃から様々な学習を／どん欲に
 - 現実性と学問性の重視
 - ・生活に役立つ
 - (2) 自ら考えるスキルと態度
 - メタ認知的知識とモニターリング
 - ・自分で学習をコントロール
 - 問われていることは何かを言わせる
 - 解決への過程を意識させる
 - 結果の評価を自分で言わせる
 - 効力感と課題関与意欲
 - 学級の雰囲気とモデリング
 - ・学び合う集団が必要 → 友だちの学びを知る／切磋琢磨する集団
- 4 習熟の程度に応じた指導
 - (1) 習熟度別指導の改善点
 - 習熟度から達成状況の把握へ
 - ・平均的な子をどうするか
 - ・平均的な子……手を抜くとすぐに忘れてしまう。このレベルの子の学習深化を
 - グループ分けから最適課題の提供へ
 - ・文字通り「個に応じた指導」……最適な課題を
 - (2) 評価を軸にした単元計画
 - 共通学習→単元別学習→補充・深化・発展課題
 - 形成的評価
 - ・単元別評価による課題意識の喚起
 - 単元展開の延長線上での発展的な学習

◇講義8 教室でできる特別支援教育

曾山和彦（名城大学准教授）

- 1 気になる子が気にならない学級1 ～秋田県A小学校・教師がロールモデルを見せる～
 - 教師が気になる子の「気にならない点」を見つけ、「ほめる、勇気づける、認める」働きかけをしている。
 - 教師が気になる子の「気になる点」は、「非言語・対決アイメッセージ・確認」による働きかけをしている。
 - ・「非言語」……近くに行って肩をポンポンとたたき、指さして見せる、など。

- ・アイメッセージの「アイ」は目ではなく、「私」〈トーマス・ゴードン〉……「先生はとてもうれしいな」「今、とても悲しい」「○○君、ありがとう」→自分の素直な気持ちを開示する。
- 教師をモデルとして「ミニ先生」が教室にあふれている。
- 2 気になる子が気にならない学級2 ～三重県いなべ市立山郷小学校・授業づくり～
 - 学習規律・ルーティンワーク
 - リズムとテンポ
 - 1指示1動作
 } これを一つの流れとして
- *気になる子が生き生きと取り組める授業は周囲の子どもにとって、さらに意欲的に取り組める授業となる。
- 45分集中して学ぶ1年生，発言回数70回を超える3年生
- 3 通常学級における特別支援教育が進められるために ～A小・山郷小の共通項～
 - 特別支援教育コーディネーターが機能している。
 - 校内委員会が機能している。
 - 個別の指導計画の作成&機能している
- 4 なぜ障害理解が大切なのか ～奈良の少年事件から「草薙厚子著：僕はパパを殺すことに決めた」～
 - 少年は精神鑑定で広汎性発達障害」を指摘されている。
 - 広汎性発達障害の人は，言葉の意味をそのまま受け取ってしまうことがある。
→父親から「成績が悪ければ殺す」と脅かされて……。
 - 障害が問題や事件を起こすのではなく，周囲の理解や対応の不十分さが問題や事件の呼び水となりやすい。
- 5 個別支援を考える ～障害を理解する～
 - ある保護者の話
「うまく指導してもらえなくてもよかった。でも，子どものことは理解してほしかった」
 - 杉山登志郎 2003（あいち小児保健医療総合センター）
「広汎性発達障害の児童に出会わないことなどあり得ないので，すべての教師は最低限の知識を身につけてほしい」
 - 自閉症者の自伝がそのヒントとなる
ドナ・ウィリアムズ 「自閉症だった私へ」新潮文庫
- 6 発達障害者支援法 2005.4 施行
 - 支援法における発達障害定義
 - ・「自閉症，アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害，学習障害，注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害を言う」
 - これまで教育や福祉の支援対象となっていなかったものに対し，国，地方公共団体の支援責務を明らかにした。また，学校教育における支援，福祉増進を目的とするため，対象はやや狭義になっている。
- 7 対象児童生徒への基本的な支援 ～自尊感情&ソーシャルスキルをはぐくむ～
 - 日常的な注意，叱責により自尊感情低下（2次障害）
 - ・ほめる，勇気づける，認めることで2次障害を防ぐ。
 - ・未学習，誤学習のソーシャルスキルを教える→教師の腕の見せ所
- 8 自尊感情をはぐくむ ～2次障害のブロック～
 - いいところ探し……エンカウンター
 - ・いいところのレベルを下げる……「毎日学校へ来る」「給食を残さず食べる」
 - リフレーミング……枠を作り直す
 - ・「短所は飽きっぽいとこと」→「それは○○という長所でもあるよ」
 - 勇気づけ
 - ・失敗しても自尊心，所属感を失わない態度
 - ・「ありがとう」「うれしい」「助かった」という言葉かけ
- 9 具体的対応法
 - ADHDへの基本対応
 - ・脳の実行機能に弱さがあるため，自らの動機づけが困難。故に報酬（ごぼうび）で行動をコントロールすることが基本
 - ・改善目標を1つ決め，達成したらシールやスタンプの報酬
 - ・注意や叱責の何倍もの賞賛を
 - ・できていること，できそうなことを賞賛する
 - ・賞賛，叱責は直後に，そして明確に
 - ・指示は必ず復唱させる
 - ・クールダウンの場を設ける

- A 児の事例（パソコンが大好き）
 - ・ 約束カード……朝の歌をみんなといっしょに歌う／集会に本を持たずに参加する／など、できたらシール1枚→5枚たまとパソコン15分券がもらえる。
 - ・ パスポート……「保健室へ行きます」「職員室へ行きます」
 - ・ ソーシャルスキルトレーニング…… A 児だけでなく学級全体を対象として実施
有効なテキスト「ロン・クラーク みんなのためのルールブック」
- 一斉指導における個別支援の配慮（諸準備等）
 - ・ 学習指導……学習指導に合わせたプリント準備（2・3学年下げた内容）
 - ・ 行動面 ……ときどき立ち歩く程度は目をつむる／学習ルール，対人ルールは指示する（違反のときは非言語メッセージを送る）
 - ・ 対象児を馬鹿にする，えこひいきすると反発場合もあるため，学習や行動の「練習」であることなど，他の児童への説明は必要。また，後の対象児童保護者トラブルを防ぐため，保護者面談も必要。
 - ・ 個別の指導が必要な場合，他の児童への課題も準備しておく。
- 10 まとめ ～通常学級における特別支援教育が進められるために必要なこと～
 - 対象児童生徒の障害を理解する→研修を
 - 担任が一人で対応できるかどうかを共通確認する校内体制→体制づくりを
 - 学級がすべての児童生徒にとって満足する場所になっている→学級づくりを
 - お互いに「助けて」と言える校内の雰囲気がある→職場内のコミュニケーション促進を
 - 管理職，担任，特別支援コーディネーターなど，それぞれの腕の見せ所

3 目 目

◇講義9 学ぶ意欲と学力の向上

桜井茂男（筑波大学教授）

子どもの学力の低下が懸念されている。学ぶ意欲を高めることでそれに対処しようとしているが，そもそも学力と学ぶ意欲にはどのような関係があるのか。

質の高い学力を上げるには，どのような意欲が必要なのか。さらに，学力さえ上がればそれでよいのか。

- 1 わが国の子どもの学力低下問題とは
 - (1) 学力の低下を確かめるにはどうすればよいか
 - ・ 同じ問題での正答率で比較する……もっとも厳密か→問題の適切性が問われる。
 - ・ 国際調査……順位の変化や平均値を一定にしたときの得点の変化
 - ・ 数字の上では変化が見られても，ほんとうに意味があるのか
 - (2) 実際の調査結果はどうか
 - ・ 国内の調査……同一問題で正答率が上がった調査（荻谷「学力の低下の実態」）もあれば，下がった調査（H15「小中学校教育課程実施状況調査」）もある。
 - ・ 国際学力調査……基礎では高く一定TIMSS，応用では低下PISAが見られる。
*参考 TIMSS 数・理小4と中2 / PISA 読解・数理リテラシー 15歳が受験 /
 - ・ 全体的に言えば，やや低下が見られるということか。
- 2 学ぶ意欲（主として「自ら学ぶ意欲」）を高めれば学力は上がるのか
 - (1) 国際調査に見る学ぶ意欲と学力の関係 TIMSS2007の場合
 - ・ 国，あるいは地域を単位として，学ぶ意欲と学力との関係を見る調査
 - ・ 各国の中2生が数学を「楽しい」と思う割合と平均点の関係
〈先進国：日本・アメリカ・シンガ・韓国・台湾など〉→負の関係
〈発展途上国：カタール・アルジェリア・ガーナ・エジプトなど〉→正の関係
 - ・ 安心して学ぶ環境がないため，十分に学べない国と，学ぶこと意外に興味の持てることが多い・外からのプレッシャーによって学ぶ国の存在
 - (2) わが国の調査に見る学ぶ意欲と学力の関係 2007 桜井調査
 - ・ 正の関係……小6と中1対象
 - ・ アメリカでも国内調査では同様の結果
 - ・ 自ら学ぶ意欲が高まると学力も上がるという研究結果も報告されている。
- 3 「自ら学ぶ意欲」で学ぶことのメリットとは何か
 - ・ 自ら学ぶ→内発的（おもしろい，楽しい）／自律的（目標にそって学んでいく）
 - ・ 自ら学ぶ⇔外発的意欲（やらされる）

- (1) 適応的であること
 - ・学力が高く、健康（特に精神的に）
 - ・外発的意欲……学力が高いこともあるが、精神的に不健康（うつ・自尊感情低・自己受容不可）／学力に注目しすぎるとゆゆしき事態を引き起こす。また、身につけた知識が剥落しやすい。
- (2) 学力の質が高いこと
 - ・学習内容を深く理解し、創造性も高い。
 - ・覚えたことを使って（覚えたことを材料にして考えてみる）みることによって、覚えたことが定着する。また、考えることを楽しめるため、独創的なアイデアが生まれやすい。
- (3) 自ら学ぶ意欲へスムーズに移行すること→キャリア教育（就労まで）
 - ・学ぶことから働くことへのスムーズな移行が可能になる。
 - ・自発性がパーソナリティの一部になる。
- (4) (1) についての研究例

「中学生における学ぶ理由と学力及び精神的健康との関係」

 - ・4種類の「学ぶ理由」とその自発性の程度
 - ①おもしろから学ぶ（もともと自発的）
 - ②将来こうなりたいから学ぶ（自発的）
 - ③ほめられたい（よい成績をとる）から学ぶ（外発的）→②に移行する場合もある
 - ④プレッシャーが強いから仕方なく学ぶ（もともと外発的）
 - ・期末テストの成績

①②③が高いほど学力はよい。その効果は②③で高い。
 - ・精神的健康

①②③が高いほど勉強に自信がある。その効果は①が最も高い。

②③④が高いほど勉強のストレスが強い。その効果は④が最も高い。

③④が高いほど勉強不安が強い。
 - ・①の理由が、学力でも精神的健康でもよい効果をもたらすと予想したが、どちらかといえば②の方がよい。中学生になると、将来こうなりたいというような目標を持って自ら学べることで、学力にも精神的健康にもよい。
 - ・人は学ぶ理由が一つだけではなく、いろいろな理由をもっている。その意味では、自発的な学ぶ理由が優位になるような学ぶ理由の持ち方でよい。

4 どのようにして「自ら学び意欲」を育てるか

- (1) 発達を考慮して育てる
 - ・幼保……しつけだけではなく、知ること（学ぶ）ことの楽しさを
いやなことでもやる→お母さんのために・お母さんを喜ばせたい→「人のために」の芽生え
 - ・小学校低学年……学ぶことのおもしろさを強調／おもしろいから学ぶ／考えることのおもしろさ
 - ・小学校高学年……将来こうなりたいという目標（自己実現のための人生目標）／キャリア教育／いやなことでも目標達成のために自発的に学べる→必要だから（自己判断できる）
- (2) 賢い教師が必要
 - ・個々の子どもをよく見て、適切な指導ができる教師
 - ・自ら学ぶ意欲を教育によって適切に喚起、維持
- (3) 安心して学べる環境が必要→意欲があってもこれがないとだめ
 - ・家庭でも学校でも……勉強できる場所／教室／図書室など
 - ・人的環境……サポートしてくれる親や教師、友だち
- (4) 学習習慣の確立
 - ・小学校低学年のうちに
 - ・自分ができることは楽しい→興味・関心

◇講義10 こころと社会性を育てる道徳教育 —道徳重視をどうとらえるか—

押谷由夫（昭和女子大学教授）

1 道徳教育は一人一人の幸福を追い求めるもの → 自分の生き方を考える

- (1) あなたは、いま幸せですか
 - ・精神的幸福感
- (2) どうすれば幸せに生きられるか
 - ・自分のよさに目を向ける→よさを広げるために弱さに立ち向かう
 - ・感謝する心とともに、心の支えを持つ

- ・夢を持って、まじめに生きる
- ・子どもとともによりよい生き方を追い求める
- ・子どもを丸ごと認め、よさを生かして課題に立ち向かえるようにする

2 新学習指導要領で特に重視されていること

- (1) 人格形成の基礎の確立
 - ・道徳性を基盤とした知・徳・体の調和的発達
 - ・文化、伝統の重視
- (2) 社会的自立力の育成
 - ・集団自治能力をはぐくみ、伸ばす
 - ・協同創造活動能力
- (3) 社会の変化への対応
 - ・国際化／情報化／環境問題／福祉問題
 - ・学年掲示板に地図を掲示……子どもたちで状況をリアルタイムで表示していく
- (4) 習得・探究・活用力の育成
 - ・ノート指導／予習、復習／学習習慣の確立／探究学習、プロジェクト学習
- (5) 特別支援教育の理念の実現
 - ・共生（交流学級）／個別の指導計画／個別の教育支援計画

3 子どもの品格を育てよう

- (1) 美意識をはぐくむ
 - ・環境の美しさ、行為の美しさ、心の美しさ、表現の美しさ、心理の美しさなど
- (2) 精神的豊かさを求めるようにする
 - ・健全な価値意識を持つ
- (3) 美しい心の内面を具体的な行為として表せるようにする
 - ・周りの人々に心の豊かさを感じ取ってもらえるような生き方ができる
- (4) 豊かな教養を身につける
 - ・芸術や文化に触れ、身につける
 - ・日常の生活を豊かにする（特に学校、家庭、地域）

4 社会的自立力を育てよう

- (1) 基本的な生活習慣を確立すること
 - ・自分のことは自分でできる／身の回りを整えることができる／生活のリズムを確立する
- (2) 集団や社会の一員としての役割と責任を自覚し、実践すること
 - ・かかわりの中で生きる自分を自覚する→まわりに影響を与える自分、与えられる自分
 - ・集団や社会（文化、自然、人々など）に支えられて生きている自分を自覚する
 - ・集団や社会の一員としてしなければならないことを自覚し、責任を持って行う
- (3) 個の成長と集団の成長を同時に考え、自己形成を図ること
 - ・自分のよさや特徴を把握する／集団や社会のしくみを理解する
 - ・自分のよさや特徴を生かして集団や社会に参画する（主体的かかわり）
 - ・調和的に道徳性を身につける……道徳的価値の調和的内面化、そのための自己評価力の育成
 - ・将来への夢や大志を持つ

5 各教科等の特質に応じた道徳教育を具体化しよう（真の学力を育てる）

- (1) 各教科の教育活動の目的を押さえる
 - ・知識や技能の習得に関わるものと態度形成に関わるものが必ず含まれている。
 - 「態度形成」は見落とされがち、教科を通して「生き方」を
- (2) 授業の態度や授業形態の工夫
 - ・姿勢を正す／相手の話をよく聞く／真剣に考える／相手にわかるように表現するなど
 - ・共同学習／小集団学習／全員参加の授業／一人一人が生かされる授業など
- (3) 各教科等の固有の学習における道徳的「気づき」や「興味関心」の喚起
 - ・学習内容に関わる知的な気づきや興味関心と同時に道徳的気づきや興味関心が持てるようにする。
 - ・そのことで教科の学習が単なる知識技能の学習から、豊かな人間形成とのかかわりでとらえられるようになる。
- (4) 道徳的価値を正面から取り上げる学習が各教科の固有の学習の中でできないかを考える
 - ・作文「思いやりについて作文を書こう」「人間としての魅力を探ろう」／図工「思いやりのポスターを描こう」「思いやりの紙芝居をつくろう」／体育「思いやりの心を体で表現しよう」／家庭「愛情を伝える料理をつくろう」
- (5) 各教科等の学習と関係する人物を紹介する
 - ・その学習と生き方の魅力について話す機会を持つ……人物の生き様

- (6) 各教科等の評価の中に「道徳的学び」を位置づける
 - ・授業に関する子どもの自己評価に道徳的観点を入れる。
 - ・4観点に加え、道徳的学び、(例えば「協力・助け合い」)を加える。
 - 4観点は個人の世界(内面)にとどまる。
- 6 心に響き残る道徳の授業を積み重ねよう
 - 奇をてらう必要はない
 - 内容項目に正面から向き合う,じっくり自分と向き合う(5との違い)
- (1) 資料との会話を深め,心に残す授業を工夫する
 - ・資料の世界に浸る/登場人物の立場に立って想像し,創造的に考える
 - ・資料の世界や登場人物の生き方や考え方と対話しながら自分を見つめる
 - ・資料を通して,資料を媒介とした話し合いを通して,資料と自分自身との対話を通して,新しく学べたこと,心にとめておきたいことなどを記録し,積み重ねていく。
- (2) 予習と復習のある授業を工夫する
 - 道徳ノートをつくろう……1時間分3ページ(「事前」「時中」「事後」),資料なども貼っておく。
 - ・考えてきたこと,調べてきたこと名アドを踏まえて授業する。
 - ・授業の後,もう一度授業をふり返って授業で学んだことや考えたこと,気づいたことなどをまとめる。
 - ・さらに,授業の後に取り組んだこと,気づいたこと,考えたことなども記入する。
- (3) 道徳的価値について継続的,発展的に学べる授業を工夫する
 - ・特に複数回取り上げる内容項目は,3~4回分の授業とその間の学習をまとめた冊子をつくとよい。
 - ・「思いやり」に関する学習の冊子→心のノートも活用
 - ・総合単元的道徳学習の工夫
- (4) 教科等との関連を密にした授業を意図的に計画する
 - 道徳的実践力の育成を多様に考え,多様に育成する
 - ・道徳と特別活動,道徳と総合,道徳と外国語活動,道徳と国語,道徳と理科など,意図的に関連を持たせた指導を工夫する。
 - ・それぞれの指導のポイントを押さえて道徳の時間の特質がより生かせるようにする。
 - 道徳で学んだことが道徳の時間を離れて生かされる
- (5) 自己評価を深め,豊かな自分づくりの要とする授業を工夫する
 - 道徳の評価は,子どもたちの自己評価を評価するという視点が必要
 - 道徳の「指導と評価の一体化」…道徳の評価は難しい→「人格」に関わる
 - ・1時間1時間を積み重ねていけるようにする……自己評価を積み重ねていく
 - 自己課題を見つける…自己指導(教師のアドバイスが必要)
 - ・道徳の時間の学習や自己評価をふり返り,成長を確認できるようにする。
 - ・トータルとしての自分が見つめられるようにする。
 - 基本的な道徳的価値全体から自分を見つめる
- (6) 学級経営の中核となる授業を工夫する
 - ・このような学級にしたい,このような子どもたちを育てたいという願いが子どもたちに伝わる授業を年度初めに行う。
 - ・学級目標などに関わる道徳的価値の学習を総合単元的に1ヶ月くらいの期間で計画する。
 - 道徳の時間が「要」となるようにする
- (7) 学校,家庭,地域連携の要となる授業を工夫する
 - ・教師,子ども,保護者,地域住民が郷土資料や学校資料をつくる
 - ・地域の人材活用,地域への授業の公開
 - ・道徳の時間を保護者や地域の人といっしょに創っていく
 - ・道徳の時間の学習の様子を学校通信や学級通信などで知らせたり,公共施設などでパネル展示などする。

◇講義11 地域・保護者と連携した学校づくり

野口克海(大阪教育大学監事)

- 1 はじめに
 - ・ゆとり教育……マスコミが勝手につくった言葉/文科省は「ゆとりの中で生きる力を」→詰め込み教育の反省
 - ・今までの教育……「おぼえましたか(知識)」「わかりましたか(理解)」「できましたか(技能)」→「はい,次に進みますよ」
 - ・これからの教育……学校と保護者だけで進められるわけがない。

2 なぜ連携なのか

(1) 学校・教職員の現状

- ・極端から極端にぶれる教育改革→現場の人間はぶれないでほしい
- ・学校教育が「知識・理解・技能」だけなら「地域の力」は足りない
- ・考える教育, 生涯学習の基盤, 生き方を学ぶ

(2) 子どもたちの現状

- ・孤立した子どもたち……子どもたちの2極化(富裕層と貧困層)
- ・生活体験の差, 学習環境の差

2 大阪府の地域教育協議会(すこやかネット)

- ・1中学校毎に50万円の予算
- ・府下350中学校区
- ・地域協議会……地域のあらゆる団体が加入/事務局長にはいい人を
- ・双方向の連携……子どもたちは地域に貢献(一人暮らしのお年寄り訪問など)
ギブアンドテイクの関係, 求めてばかりではだめ
町ぐるみで子どもたちを教育
- ・地域の人が入れば入るほど先生は楽になる……任せてしまうことでやりがいへつながる

3 兵庫県の「トライやるウィーク」

- ・トライ(体験)をやる
- ・のぼりを立てて実践……地域へのPRとなる/地域の人も協力, 参加する/地域をあげて子どもたちを応援

4 学校に地域をつくっちゃえ

- ・憩いのゾーン……コンビニ・レストラン
- ・子育て支援ゾーン……診療所・託児所・デイケアセンター
- ・スポーツ健康ゾーン……グラウンド・体育館・プール
- ・生涯学習ゾーン……公民館分室・図書室
- ・学びのゾーン……教室

これらすべてを
学校敷地内に設ける

5 余談

- ・表現力……タイの交換留学生のあいさつ→タイの中学生は何も見ないでりっぱに自分の思いをあいさつできたが, 日本の中学生は紙を見ながらたどたどしくあいさつ
- ・時代の要請……英語とコンピュータ
- ・無着成恭……墓参りしたことのない子(畏敬の念)
- ・ヤマアラシのジレンマ……友だちとの好ましい距離感
- ・「説明」と「いいわけ」……苦情が来る前に保護者に説明/苦情が来てからでは何を言ってもいいわけ
先手必勝/今日すぐ行くから教育/行ったら10分でもよいから子どもの勉強を見てやる
- ・保護者との面談(家庭訪問・個人懇談会なども含めて)……子育ての苦勞を共感的に, 手をつなぐため

— 参考図書 —

■「社会性を育てるスキル教育 小1～中3」

清水井一: 著 図書文化社: 刊 各巻¥ 2,310

■「成長のものさし」☆

チップ ウッド: 著 安彦忠彦・無藤 隆(翻訳)図書文化社 ¥ 2,310

■「発達障害境界に立つ若者たち」☆

山下成司: 著 平凡社新書 ¥ 740

■「みんなのためのルールブック」→これは子ども向けです

ロン・クラーク(著), 亀井 よし子(翻訳) 草思社

■「あたりまえだけど、とても大切なこと」☆

ロン クラーク(著), Ron Clark(原著), 亀井 よし子(翻訳) 価格: ¥ 1,470 草思社

■「親と教師にとって、すごく大切なこと」☆

ロン・クラーク(著), 松本 剛史(翻訳) 価格: ¥ 1,470 草思社

■「自閉症だった私へ」

ドナ・ウィリアムズ 新潮文庫

*注: ☆印については, 島原が持っています。関心のある方は声をかけてください。